

■福住正兄 農政家。二宮尊徳門下で、報徳運動を指導、箱根湯本で福住旅館を再興し、一帯の観光事業を推進した。

ふくずみまさえ

シボム 鳴滝塾 1824＝ 相模国大住郡片岡村で、名主大沢市左衛門の第五子に生まれる。

日本外史・ ・ 1827＝ 3歳： 近村金目村の名主森勝五郎の養子となる。

シボム 事件・ 1828＝ 4歳：

実家・養家とも、向学の家系で、

富籤流行・ ・ 1830＝ 6歳： この頃から、習字・読書を習い始め、

天保大飢饉始 1833＝ 9歳：

天保の大飢饉で、養家でも儉約に努め、近くでも一揆が起こるといった状況を救うには、二宮尊徳の報徳の教えしかないと聞いた長兄の義父が下野桜町まで出向いて教えを受けて帰郷するや、実父はじめ多くの村民が、小田原来訪時の尊徳に面会して入門、

大塩平八郎乱 1837＝13歳：

適塾ホヰン・ 1838＝14歳： この頃には、四書五経の素読を終え、解説を始めるなど、才能を発揮するとともに、尊徳門下となる。

天保改革弾圧 1842＝18歳：

小田原藩が尊徳を敬遠していたこともあって、

阿部正弘首座 1845＝21歳： 上ようやく、小田原藩主支族の江戸藩邸にあった尊徳の塾に正式に入る。

塾が日光東郷神社内のあばら屋に移って以降も、尊徳と寝食をともにしながら学び続け、

国定忠治磔・ 1850＝26歳： *報徳の仕法を実践すべく、塾を出、箱根湯本で代々名主を務めながら凋落していた福住旅館の婿養子となり、相続して10代福住九蔵を名乗る。早速、旅館の絵図面を安藤広重ら一流の絵師に頼んでつくった錦絵を配布するなど、広告宣伝を始めると、名が知られるようになり、続いて、経営方針を改善、

尊徳報徳論・ 1851＝27歳： *周囲からも一目置かれ、早くも、名主に就任すると、村民一同を集めて、公定価格を設定するなど、村全体の信用回復に努め、

ペリー来航・ 1853＝29歳：

数年にして、家業を再興すると、間宮永好・鈴木重胤らから国学を学び、帳場に坐りながら勉学を続け、

桜田門外変・ 1860＝36歳：

この間、福住旅館は2度も焼失、仮普請のまま営業を続けながら、耐火建築法を研究、

薩摩藩士密航 1865＝41歳： 湯本村再興させた功で、藩から脇差袴着用・苗字御免の免状を下される。

明治維新・ ・ 1868＝44歳：

戊辰戦争終・ 1869＝45歳： 時流の大変化を受けて、藩に学校建設と国学教育を訴える長文の建白書を提出。

廃藩置県・ ・ 1871＝47歳：

学問のすすめ 1872＝48歳： *藩士に上げられ、ついに、藩校で教鞭をとるに至る。家督を長男に譲り、福住正兄と改名。
再び、旅館が全焼してしまうと、小田原の大工とともに、東京・横浜へ見学に出かけ、石造り3階建ての洋風旅館の構想を立て、

明治6年政変 1873＝49歳：

佐賀の乱・ ・ 1874＝50歳： 南北2棟を着工、

初の民間工場 1875＝51歳： 小田原～三島間の新道開削に着手、

三つの内乱・ 1876＝52歳： この年、湯本に人力車が入る。

西南戦争・ ・ 1877＝53歳： 親交あった最後の加賀藩主に命名してもらい、南棟{金泉楼}が竣工、

大久保暗殺・ 1878＝54歳：

沖縄県編入・ 1879＝55歳： 北棟{万翠楼}も竣工。

・ ・ ・ ・ ・ 1880＝56歳： 資金のほとんどを提供し、通行料で回収する方式で、新道は湯本まで完成。

明治14年政変 1881＝57歳：

新体詩抄・ ・ 1882＝58歳： この年、湯本で、馬車の開業がある。

国民之友始・ 1887＝63歳： 有志とともに、県に、国府津～湯本間の馬車鉄道敷設の請願書を提出し、

初の対等条約 1888＝64歳： 馬車鉄道が開通。

帝国憲法発布 1889＝65歳：

大津事件・ ・ 1891＝67歳：

大本教・ ・ ・ 1892＝68歳： 箱根を訪れた内務大臣品川弥二郎に、尊徳顕彰について話し快諾を得、尊徳に従四位が贈られ、
湯場に、日本では2番目となる事業用の水力発電所を完成、箱根電灯発電所と名づけ、旅館街に灯をともし
てた後、生涯の大事業の報徳二宮神社建設願いを提出した直後、没した。